

カトリック

# 広島教区報

No. 122

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介神父

「点訳版」あります。  
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42  
広島司教館内  
TEL (082) 221-6017

白浜司教メッセージ・教区の動き・じゃけえのう  
典礼の窓・他教区情報・司教通達  
J-CaRM広島便り  
平和行事・地区センターだより  
海峡からの風・地区便り・青少年・ひと粒

一〜四面  
五・六面  
七面  
八・九面  
十〜十二面

## 「向こう岸に渡ろう」(マルコ4・35)

―「教区代表者会議」に向かう歩みの途上で

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教



堅信を授ける白浜司教  
トゥアン神父(東広島教会)  
右

ビ)の人々に向けて語られるメッセージです。

今年三月二七日の夕刻、サンピエトロ大聖堂の広場で、新型コロナウイルスの終息を願う特別な祈りの式が行われた際に、教皇フランシスコは「ウルビ・エト・オルビ」

**はじめに**  
カトリック教会の長い伝統の中で、重要度の高い教皇メッセージとして、ラテン語で「ウルビ・エト・オルビ」と名づけられたメッセージがあります。これは、教皇ご自身の司教区であるローマ市(ウルビ)、また、世界の教会の最高責任者として、全世界(オル

に該当するメッセージを発信されました。このメッセージの前に朗読する福音の箇所として選ばれたのが、マルコ福音書の4・35〜41(「突風を静める」)でした。カトリック中央協議会が出版した「パンデミック後の選択」(二〇二〇年七月二二日発行)という本の中で、新型コロナウイルスのパンデ

ミック(世界的大流行)に関連する教皇フランシスコの二つの「ウルビ・エト・オルビ」と、その他の文書を読むことができます。

### 嵐の中で

教皇フランシスコは、このメッセージの中で、新型コロナウイルスのパンデミックを「嵐」にたとえておられます。今年になって世界的な規模で感染が広がり、その終息の兆しが見えない状況は、まさに「突風を伴う嵐」ではないかと思

います。新型コロナウイルスのパンデミックの中にあって、カトリック教会も種々の困難に直面しています。教皇フランシスコは、三月二七日に発せられたメッセージの中で、次のように述べています。「この物語に自分たちを重ねるのはたやすいことです。難しいのは、イエスの態度を理

解することです。弟子たちは、当然のことながら不安におびえ絶望しています。イエスは、最初に沈み始める船尾にいます。そこで何をしておられるのでしょうか。騒ぎの最中にも、御父を信頼してぐっすり眠っておられます。福音書の中で、イエスが眠られているのはこの箇所だけです。目を覚まして風と波を静めると、イエスは厳しい口調で言われます。『なぜ怖がるのか。まだ信じないのか』(40節)。

### 「無関心」という

### ウイルスの感染

教皇フランシスコが、続けて述べておられることに注目したいと思います。「ここで、考えてみましょう。イエスの信頼とは対照的に、イエスの弟子たちの信仰には何が欠けているのでしょうか。弟子たちはイ

エスを信じるのをやめたわけではありません。現に、イエスに救いを求めています。では、その願い方を見てください。『先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか』(38節)。かまわないのですか―彼らは、イエスが自分たちのことに関心がなく、気にかけてはいないと思っ

ています。自分や家族がもつとも傷つけられるのは、『わたしのことなど、どうでもいいでしょう』ということばを聞くときです。それは、心を傷つけ、かき乱すことばです。イエスも心を揺さぶられたことでしょう。イエスほど、わたしたちを大切にしてください。事実イエスは、助けを求められると、絶望している弟子たちを救われるので

「向こう岸に渡る」

「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」。イエスは決してそう思っではおられません。イエスが、マルコ福音書の4・35〜41節の冒頭で、弟子たちに語っておられることばを心に留めたいと思います。「その日の夕方になって、イエスは、『向こう岸に渡ろう』と弟子たちに言われた」のです。――



堅信を授ける白浜司教（広島市 三篠教会）

の新型コロナウイルスのパンデミックをはじめ、種々の困難の嵐の中に置かれています。このような中で、広島教区は、キリストが望まれる霊的な「向こう岸」を指していくため、来年の十一月二三日に教区代表者会議を開く準備を続けています。新型コロナウイルスのパンデミックと、この教区代表者会議の準備の時間が重なっていることは、むしろ大きな恵みと捉えることができます。教皇フランシスコは、先に紹介した三月二七日の夕刻のメッセ――

「決断の時」です。そこで、わたしたちは「無関心」というウイルスに気をつけたいと思います。教皇フランシスコは、二〇二〇年四月十九日（復活節第二主日）の説教の中で、わたしたちが「より悪質なウイルス、無関心なエゴイズムというウイルス」に侵される危険があると警告しながら、今「起きているこの出来事が、わたしたちを内奥から揺り動かすものとなるよう期待します」と述べています。

教区代表者会議とは

「教区代表者会議」とは、司教自身が必要に応じて招集し、規定にしたがって選出された教区内の司祭、修道者、奉献生活者、信徒の代議員が集まり、教区全体の善益のために、宣教司牧に関連する事柄を、①調査し、②検討し、③実際の結論を提示して、司教を助けるための特別な評議会（諮問機関）のことで、司牧任務に関する教令」

27、「カトリック教会法典」第四六〇条、参照）。その後、司教は、この教区代表者会議で示された具体的な提言を基にして、教区全体の宣教司牧のために重要な決定をおこなうこととなります。――

具体的な

方向性のビジョン

昨年立ち上げられた教区代表者会議の準備委員会では、教区の現状を調査するためにアンケートを実施し、その中から浮かび上がった種々の検討課題が、以下の五つの分野にまとめられています。さらに、各分野で目指していく方向を

**シルベスタ助祭 司祭叙階式**

日時：11月28日(土) 11:00～

場所：世界平和記念聖堂  
カトリック職町教会

司式：アレキシオ 白浜 満司教

受階者：シルベスタ助祭（淳心会）  
NKANDA Kedje Sylvestre

\* 聖堂内は 150名の人数制限があります。  
\* 叙階式の様子は YouTube で Live 配信されます。





堅信を授ける白浜司教（下関市 細江教会）

示す目標（「向こう岸」）が、二つずつ標語化されています。

(1) 新しい福音宣教（新しい様式）

① 祈りと活動を通して、みんなでともに喜びをもつて福音を伝えよう

② 新しい体制、取り組み、様式を具体化して、福音宣教を推進しよう

(2) 平和

③ 身近な平和から社会（世界）の平和を実現する「平和の使徒」となるう

④ 教会から離れている人とのきずなを大切にし、その想いを聴こう

(3) 多文化共生

⑤ 言葉や文化の違いを受け入れ、互いに理解し合い、協力しよう

⑥ 教会に集うすべての人が、温かさを感じる「神の家族」を目指そう

(4) 協働

⑦ 様々な課題を共有して、ともに考え、助け合い、一緒に乗り越えよう

⑧ 互いの違い（差）を受け入れ、互いの思いを伝え合い、協働しよう

(5) 養成

⑨ 互い（司祭、修道者、信徒）の召命をともにはぐくみ、支え合おう

⑩ 互いの生涯養成やリーダー養成を通して、次世代へ信仰を継承しよう

おわりに

前項の五つの分野と一〇の標語はまだ素案の段階ですが、これらは教区代表者

会議の際に分科会のテーマとなっていくものです。教区代表者会議のための準備は、①アンケートの実施とその集計をおこなって、具体的な方向性のビジョンを五つの分野と一〇の標語にまとめた調査の段階から、②検討し、③実際の結論を見出す、次の段階へと進められていきます。今後、各地区の宣教司牧評議会を通して各小教区へ、分科会テーマとなる五つの分野と一〇の標語（素案）についての検討と、それを実現するための実際的な提案のお願いがなされていくのではないかと思います。

広島教区の神の家族の皆さん、霊的な「向こう岸」を目指して、父である神のみ旨をよく識別し、必要な手段を選択していくことができますように、わたしたちと同じ船の中にいてくださるイエスに信頼し、聖霊の導きを願いながら旅を続けて行きましょう。そして、わたしたちが一致協力して教区代表者会議の準備に取り組んでいくことができるよう、聖母マリアの取

教区の動き

平和の使徒推進本部

り次ぎを願いたいと思えます。どうか、皆さんの理解とご協力を、よろしく願います。

平和の使徒推進本部事務局では、広島教区向けのインターネット番組「教区代表者会議を知る」をシリーズで制作し、YouTube上で限定公開方式により配信することになりました。

この番組が、広島教区民の皆様の教区代表者会議に



教区代表者会議を知る 第3回目「教区代表者会議の歴史について」

教区代表者会議を知るー第3回目「教区代表者会議の歴史について」(約15分、字幕スーパー付) YouTube番組の様子

ついでに理解及び会議に対する準備を円滑かつ有意義なものとするための助けになることを期待しています。

「白浜司教に聞く、教区代表者会議開催の意義について」の番組概要

教区代表者会議は、広島教区が二〇二三年に迎える教区百周年以降の広島教区宣教司牧活動の目標や指針について、白浜司教が設定することを助けるために開催されるものです。

教区代表者会議の総合テーマは、教皇フランシスコの呼びかけで設定された「福音宣教特別月間<sup>(1)</sup>」に関する教皇庁福音宣教省からの指針<sup>(2)</sup>に基づいて、日本司教団が昨年二〇一九年十月に「ともに喜びをもつて福音を伝える教会<sup>(3)</sup>」になるよう招いた標語をそのまま使用しています。

この目標を達成するための助けとして日本司教団は、主に五つの事例<sup>(4)</sup>を掲げて福音宣教への取り組みを促していますが、教区代

表者会議を準備していく上でもおおいに参考になるものです。

① 聖霊に祈ること・・・福音宣教のイニシアチブは**神(聖霊)**にある

② 聖霊に促されて福音宣教をおこなった**最高の模範**はイエス様

③ 殉教者や聖人は生きた模範・・・まずは「**中産階級**」の証し人を目指そう

④ 諸国民への宣教・・・身近にいる**諸国民の方々**とみことばをのべ伝える

⑤ 宣教や奉仕活動への支援・・・**行いが伴わなければ**、信仰は活きたものではない

白浜司教は、「わたしたち広島教区民ひとりひとりには、聖霊の働きがあり、聖霊の賜物が与えられている」と番組内で教えられ、「ひとりひとりがそれぞれ少し立ち止まって、自分どのようなタレントがあるのか考えて頂けないか」と

呼びかけています。

今日から、教区代表者会議開催までの期間を、「わたしたちひとりひとりがイエス・キリストの福音をのべ伝える(今後の広島教区福音宣教活動)のために、どのような形で与えられるのか」識別し考えていくための時間にしていきましょう。

\*注釈：.....

(1) 「世界における宣教活動に関する使徒的書簡『マキシムム・イルド』」  
発布百周年に向けた教皇フランシスコの書簡  
(二〇一七年十月二十二日)

(2) 教皇庁福音宣教省の書簡  
(Prot.N.4364/17)

(3) ともに喜びをもって福音を伝える教会へ「福音宣教のための特別月間」  
(二〇一九年十月) に向けての司教団の呼びかけ

(4) 同上



「教区代表者会議を知る」番組再生リストQRコード (YouTube)

# じゃけえのう

『二〇二〇年／二一年 金融金銭教育研究指定園』

これは私共、岡山聖園幼稚園が岡山県私立幼稚園連盟より長年に亘りこの研究を引き受けるようにと要請されましたが、「金銭」というワードに幼稚園として研究の必要性を感じきれず、断り続けていたものです。

そんな中、教皇様のお出しくださいました回勅『ラウダート・シ』にも暮らす家を大切に『を恐れ多くも幼稚園の年間主題として取り上げ、幼児教育の中で実践に取り組めるよう考えていました。そして、このずつと要請されていた研究課題が、子ども達とこの主題を励むために役立つことに気付いたので

す。普段の園生活の中で、水を大切にすることや電

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

気をこまめに消すなど、小さなことですが子ども達と共に気を付けて生活をしていきます。そして、その活動がほんの些細なことですが地球のために役立つていることをもつと子ども達と意識し、取り組んでいくことを大切にしたいと思えました。

し、子ども達の心を躍らせませす。そしてその小さな目と手で直接触れ、心から感じ、たくさんの神様が創ってくださったものを見出し、たくさんの感動を覚えます。

神様の創造の御業を伝えることによって、その創られたものを大切にすることを人ではなく、周りにはたくさんのお友達がいる友達の存在に気付き、かけがえない存在を大切にすることを覚えていきます。困っている友達がいると自然に優しい小さな手を差し伸べてあげる姿もその一つです。

また、自然界からの贈り物に対し、感謝をもって受け取っていることに気付いていきます。園庭のちいさなビオトープには四季折々の花や木の実・虫が顔を出

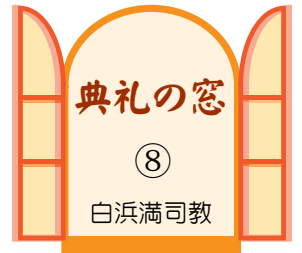
す。

教皇様は「私たちは若者から、地球を搾取するための所有物ではなく、次の世代に手渡すべき貴重な遺産」「資源は人類全体の発展と自然環境の保全のために使われるべきもの」と強くおっしゃいました。神様に創られたこの限りある資源に目を向け、未来を担う子ども達の解る方法で金銭教育と結び、教皇様のお言葉を子ども達と共に生きたいと頑張る今日この頃です。

聖心の布教師妹会

岡山聖園幼稚園 園長

シスター 日暮 操



シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

前回は、聖霊によって信

じる恵みを受けた人々が、キリストの名において「集う」ことの神秘（マタイ18・20参照）について考えました。この神秘は、集う人々が「ともにキリストを共有する」という恵みをもたらす土台となるもので

す。ともに「キリストを共有する」とは、集っている信者が、そこに現存されるキリストを迎えて、重層的にキリストのうちに一つにされていくことを意味します。

第二バチカン公会議は、『典章憲章』七番で「典礼におけるキリストの現存」について教えています。ミサに関連して、それを整理すると、以下のようなキリストの現存の重層性が見られます。①キリストを信じる者が二人以上集うとき（マタイ18・20）、そこに

キリストが現存される。②その集い（教会）の中で聖書が読まれるとき、キリストご自身が語られる（キリストはご自身のことばのうちに現存される）。③キリストが司祭の奉仕職を通して、ご自分の力によって現存しておられる。④キリストは聖体の両形態のもとに現存しておられる。

このように、典礼に現存されるキリストを迎えて共有する（一つになる）段階を、ミサの流れに置き換えると、①集いの中にキリストを迎える（開祭）。②集いの中で聖書を読み、みことばとしてキリストを迎える（ことばの典礼）。③司祭の奉仕職を通して、パンとぶどう酒を用いて、十字架上でのご自分の奉獻（死）と復活を祝う（奉納、奉献文）。④キリストが現存される聖体を拝領する（聖体拝領）。⑤さらに、キリストの名によって招集された人々が、最後にキリストによって、キリストとともに派遣されていく（閉祭）。

日本語で「共有」という言葉は、ラテン語の「コムニオ (communio)」という単語に相当します。この「コムニオ」という言葉は、しばしば「聖体拝領」と訳されてしまいがちです。しかし、「コムニオ」（共有）とは、集っている信者が、そこに現存されるキリストを迎えて、重層的に、キリストのうちに一つにされていく神秘全体一致（交わり）を含みます。さらに、キリストの神秘体として、それぞれの生活の場に派遣され、キリストとともに福音を宣教し、隣人の救いのために奉仕する者として、自分を奉獻することへと招かれていくのです。

ミサのために「ともに集い祝う」という典礼行為には、そこに集う信者が、キリストの死と復活を祝いながら、重層的にキリストを共有し、キリストのうちに一つとなって、キリストによって、キリストとともに派遣されていくという一連の神秘が込められているのです。

新潟教区 成井大介司教の誕生

「いつも ふくいんを とともに」をモットーに！



叙階式後、司教団との集合写真前列、左から3番目成井大介司教

二〇一七年以降、空位となっていた。

成井新司教は、愛知県出身、四十六歳、司教団では一番の若手となる。モットーは「いつも ふくいんを とともに」。

叙階式は、菊地大司教司式のもと、コロナ感染防止対策のため、信徒の参加は、新潟教区内の各地区代表六十人に限定されて行われた。

成井新司教は、神言修道会出身、二〇一二年には東日本大震災の被災地に派遣されて活躍された。

九月二十二日、新潟教区の成井大介師の司教叙階式が新潟教会で行われた。司式は、東京大司教区の菊地功大司教。同教区では

駐日ローマ教皇庁大使 帰天

ジョセフ・チェノットウ大司教

チェノットウ大司教が、9月8日午前1時29分、東京都の聖母病院で帰天された。76歳。今年の5月から脳梗塞治療のため入院中であった。来日して9年の間、広島教区で行われる平和行事にもたびたび参加されていた。



2016年8月5日平和行事、ミサの中で挨拶をされているチェノットウ大司教

## 新型コロナウイルス感染症の防止対策の方針（その9）

### ～各教会共同体で適切な判断を～

広島教区の皆様へ

10月に入り、感染状況がやや落ち着いてきました。そのために、ミサ典礼の移行措置の段階をそろそろ緩和してほしいという要望もあります。しかし、一方では、再び公開ミサを中止する措置が取られている教会もあります。秋から冬にかけて、インフルエンザの流行と共に、新型コロナウイルスの第三波が来ることも懸念されています。10月6日に行われた司教顧問会で協議した結果、総合的に判断して、ミサ典礼の移行措置の段階を、当面はそのままにしておく方針が確認されましたので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、これまでの移行段階の内容を維持しながら調整をはかり、教区で用いてきた表現（レベル0・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を、国や地方自治体が用いている表現（ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）に合わせました。広島教区としては、当面、ステージⅢか、ステージⅡ（表中★印）のどちらかを、小教区の自主的な判断によって選択する方針を維持します。

ただ、広範囲に及ぶ中国5県では地域差がありますので、例えば、叙階式やその他の特別な行事のミサなどにおいて、感染対策を十分に取りながら、一時的にステージⅠの状態へと緩和することは、小教区の自主的な裁量に委ねたいと思います。必要がありましたら、教区本部に相談していただければと思います。とくに、12月のクリスマスや新年を迎える時期には、同様な緩和を望む声があると思いますので、新たな通達をもって、教区の方針を確認したいと思います。

#### 広島教区におけるミサ典礼の移行措置の段階

（国の一般基準に合わせて一部訂正）

ステージⅣ	感染爆発	公開ミサの中止（教区司教の判断） → 教区本部から通達	ミサのライブ配信	
ステージⅢ	感染急増	公開ミサの中止（教会の自主判断） → 教区本部へ要通知		★
ステージⅡ	感染漸増	読誦（歌唱なし、オルガン独奏のみ）	マスク使用・検温 人数調整・距離確保	★
ステージⅠ	感染散発	重要な数曲に限定して歌唱可 （聖歌隊のみの歌唱などの緩和）	マスク使用・検温 人数と距離の緩和	

J-CARM広島便り

新型コロナウイルススリランカからの留学生たち

も犠牲者でした。J-CARMから援助！

防府教会 藤本忠文

新型コロナウイルスの犠牲者

は、日本中、世界中で感染者として、或いは経済的犠牲者として毎日報道されています。SARSやMARSなど通常のインフルエンザと比べて見ると、肉体的被害は少ないようですが、経済的打撃は想像を超えており、今後もどれだけ拡大するか予測が付きません。犠牲者は直ぐ側に沢山見られます。幸い私がいる防府教会では、Sr.チュイ、ベトナム人実習生の面倒を見てくれている防府市在住の、C・D・トゥアンさんに問題があれば連絡してくださいと伝えており、顔を合わせばどうですかと尋ねていますが幸い今までは問題は聞いていません。

六月の中旬、夕方八時過ぎに、彦島教会の福永さん

から、「私達の教会に来てスリランカからの留学生が、新型コロナウイルスのため、アルバイト先が無くなり、収入が激減し生活に困窮している。福岡教区の方から聞いたのですがJ-CARMで援助してあげられる方法はありませんでしょうか」と言う電話が始まりました。福岡教区のJ-CARM担当の有吉さんからは、資料を送っていただき何が出来るか検討を始めました。J-CARMへの申請には荻神父様の承認が必要と言いう事も知り、早速連絡を取り、神父様から必要な申請書を頂きました。七月五日には申請書を持って、彦島教会へミサへの参加もかねて伺い留学生と彼らを支えておられる方達にお会いし

状況を聞かせていただきました。政府から支給された援助金が入った銀行預金が差し押さえられて、困窮している人もいると言う事を聞き早急な対応の必要性を感じました。この事を七月八日のJ-CARMの会議で報告すると、幟町教会の小松さんから、口座の差し押さえには相当の理由がある筈と言う示唆を貰い、調査の必要性を感じました。日本へ来て、勉強をしながら学費・生活費を稼いでいる彼らに取って、コロナのために、仕事がなくなり、生活の道を断たれた状況は誠に厳しいものです。

事が中途半端になったことを反省しています。海外へ出かけている時、手持ちのお金が無くなることは毎日の生活上致命的な事です。申請書を荻神父に送り承認を貰い、J-CARM本部へ援助金の申請をし、八月中旬には援助金が彦島教会へ送られ、留学生の手に渡りました。感謝です。この度の問題でJ-CARM本部や他教区の方、山口・島根地区の小教区の方達とも助け合いの活動から絆が出来ましたことは大きい収穫でした。

世話をしておられる方達の苦勞は大変なものと思っています。私も愛犬を持つているだけに彼らの苦勞が推察でき、六月から援助に参加しました。

彦島教会では彼らを支えるチーム(阿川さんや福永さん達)が出来、信徒全員で食糧の援助を月二回しておられます。八月三十日再度彦島教会の訪問時、詳細を聞き、銀行口座の差し押さえの理由が判明しましたが、七月訪問時はあまり個人的な事を尋ねるのはどうかと思いがあったため、仕

話は少し横道に入りますが、収入が減り困っておりますところは人だけではありません。広島にあるピースワンちゃんと言う組織も援助を求めている一つです。今迄寄付をしていた方でも、収入の減少のため寄付が出来なくなった方もおられます。一方ワンちゃん達は世の中の事は分からず(少しは分かっているかも?)お腹がすけば食事を要求します。ワンちゃんの

難しい状況になればまず弱者が一番被害を受けます。今は周囲を見て、無駄な出費は極力省き、必要な所へ気持ちと援助を差し伸べ、此の難所を皆で乗り切りたいものです。早い時期にワクチンの開発が完了し、皆さんの不安が解消されることを神に祈っている所です。個人的には、神が人間に与えて下さった自己免疫力の増強をはかり、感染しない様務めている毎日です。皆様方も血液検査をされご自分の免疫力がどれくらい高いか知っておかれたらどうでしょうか。

# コロナ時代に平和の糸をつむぐ 二〇二〇 平和行事

平和行事実行委員会



アイダル神父によるビデオメッセージ

その分、YouTubeでの配信を行い、当日来られない方にも見ていただける形にいたしました。

行事の流れは次の通りでした。まず、八月五日は、山内清海神父（長崎教区）、ホアン・アイダル神父（イエズス会）によるビデオメッセージ。お二人は教皇フランシスコの思想に基づいて、核兵器のない世界、平和な世界を作るためにできることは何か、考えるヒントを下さいました。

「平和の糸をつむぐⅡ」すべてのいのちを守るため」と銘打った今年の平和行事は、本来でしたら、被爆七十五年を祈念し、昨年来広された教皇フランシスコのメッセージを受けて、私たちに何ができるかと考える企画にするはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者を教区内に限った小規模開催となりました。毎年各地から多くの参加者が集う境内地も静かで、平和行進もなく、少し寂しい行事となりました。

次に、分科会が二つ行われました。一つは、朴南珠さん（観音町教会）による被爆証言。もう一つは、「ヒロシマの朝鮮半島と繋がる記憶」という企画で、中井淳神父（イエズス会下関労働教育センター所長）が、記憶について神学的見地から語り、シスター古屋敷一葉（援助修道会・平和の使徒推進本部）

が朝鮮半島出身の被爆者について紹介をし、参加者の分かち合いが行われました。二つの分科会の内容が補い合う内容になりました。

その後、「平和祈願ミサ」が前田万葉枢機卿の司式で行われました。説教の中で前田枢機卿は、コロナについて「いつまで戦争に明け暮れ、つまらないことで小競り合いをしているのか。またまた、全世界、人類共通の課題が与えられたのだ。一つになって対応していかなければ、人類は滅びてしまいますよ」との警告ではないか、と問いかけられました。



被爆体験を語る朴南珠さん

ミサの後は、平和公園の供養塔前で「平和のための集い」が聖公会との合同で行われました。今回から、高校生の平和メッセージを取り入れることにしました。今年はノートルダム清心高校二年生二名が参加して、「平和と安定を世界中の人々と分かち合える未来を目指して行動したい」という意思表示に希望を感じました。

六日は「原爆とすべての戦争犠牲者のための慰霊ミサ」が白浜司教の司式で行われました。昨年来広された教皇フランシスコの平和メッセージを動画で味わった後、黙祷をして、ミサが



分科会の様子、中井淳神父

白浜司教は、一人のアメリカ人信徒の方から届いた原爆投下について赦しを求め、手紙を紹介しつつ、「世界が変容するためには、人間の心の変化・変容が不可欠であり、それを実現する力は、祈ること、希望すること、自分をささげること」と力強く呼びかけられました。午後には、プロテスタント教会との合同行事、「キリスト者平和の祈り」が行われ、深堀升治神父が被爆体験を話されました。

九日は「長崎原爆犠牲者のための慰霊ミサ」が行われました。司式された白浜司教は、長崎の信徒たちが、ヨハネ・パウロ二世の平和メッセージを聴いて、原爆は神の摂理ではなく、人間の仕業だと理解した時に、安らぎと勇気を得たという話をされながら、「困難にある時、心の持ちようを変えるには、自分の力で神に近づこうとするのではなく、自分たちの方に近づいてこられる神に委ねること」と私たちに深い祈りに





8月5日、平和祈願ミサの様子

招かれました。全体を通して、人も少なく静かでしたが、それが切なる平和への祈りに包まれた雰囲気につながったようにも思えます。また、幟町教会の中継班、手話通訳や、式次第のスクリーン表示係の方々など、多くの方の支えを頂きました。皆、新しい教会のあり方を模索しています。当日参加できなかった方は、ぜひYouTubeをご覧ください。一つの場集まることが難しい中で、私たちがそれぞれの場で平和の糸をつむぎ、世界へとつなげていくためにできることは何か、祈り求める材料にしていただければ幸いです。

「聖書」書き写しリレー 旧約版 始まる

「新約聖書」書き写しリレーに引き続き旧約版リレーが九月二十七日、翠町教会よりスタートしました。

今回のリレーは多言語版ですので、所定の横書きの用紙に国籍問わず母国語で書いていただいで構いません。大人でも子どもでも書いていただけます。筆記用具も指定はありません。自由に聖書を書き写し、リレーをつなげていきましょう。

ファイルは約半年に一度、二〇二二年末までに四回、回ってきます。できるだけ多くの方に参加して頂けるように計画的にご準備ください。

各教会での聖書リレーの様子（ファイルされる様子、ミサでの奉獻、祈りなど）を写真に撮って、平和の使徒推進本部へ送っていただきますしたらホームページを中心に公開させていただきます。

地区センターだより

広島地区センター

担当 白砂 暢栄

今年度から勤めさせていただいております白砂暢栄と申します。司祭の皆様方や信徒の皆様方には大変お世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

広島地区センターが現在の場所に独立した形となったのは、広島カトリック会館が建てられた二十三年前

詳しいスケジュール、書き写し箇所、方法等は各小教区にお送りしたご案内をご覧ください。

聖書通読写経キャンペーン完了者紹介

- 通読を完了された方  
No.007 小方 サナエ 廿日市教会
- 写経（新約・旧約）を完了された方  
No.003 沢内 恵子 廿日市教会
- 写経（新約）を完了された方  
No.013 中山 千代栄 廿日市教会  
No.014 平田 ユリコ 廿日市教会

になります。会館一階の多目的ホールの北側にあります。

地区センターは広島司教区が運営する、教区内の地区出先機関です。教区本部事務局からのお知らせ、平和の使徒推進本部のお知らせや『ガウデーテ』といった発行物は岡山鳥取、山口島根、広島地区センターに入り、各地区センターより地区内の小教区および修道院に配信しています。そのほか関係各所から配信の依頼があれば応じています。教区本部事務局並びに平和の使徒推進本部と小教区・修道院を結ぶ伝達、関係各所との連携という役割を担っています。そのほか

宣教司牧評議会、財務、召命促進、聖体授与の臨時の奉仕者養成委員会や特色ある諸活動グループを支え、地区内で行われる宣教と司牧活動の活性化を図ることを目的としています。コロナ禍ではありますが細心の注意を払いますが開催したりオンラインで交流を図

り、力を蓄えて次年度に向けて準備をしているグループもあります。

地区センターに入国管理局に提出するはずの書類が迷いこんだ事がありました。外国籍の皆様との共生の課題をいただいたような出来事でした。

広島教区長である白浜司教様の大きな力強い愛を信徒の皆様にお届けする一助となればと毎日仕事に励み、信徒の皆様、特に祈りと犠牲を捧げ、一番仕事をなさっている病者の皆様と支えている周りの方やご家族に神様の慰めが遠くようにとお祈りしています。



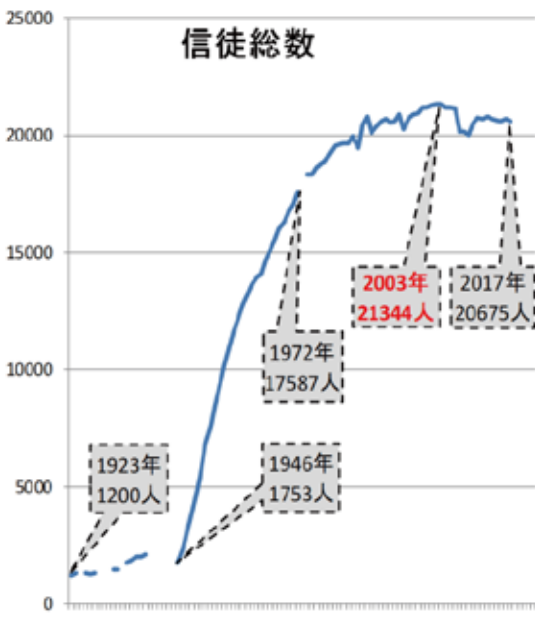
明るい雰囲気地区センター内部

広島教区百年の歩みをたどる (2)

一九二三年の教区設立から戦後までの間の信徒数については、現在調査中で概要しかつかめていないが、設立当初から微増していた信徒も、戦争の影響で減少している。

左のグラフは、毎年、各教会から報告してもらっている「教会現勢報告」をまとめた「教区現勢報告」からグラフ化したものである。

見て直ぐに分かるように、戦後三十年程の信徒数の増加は驚異的なものがある。



二〇〇三年に信徒総数としては最大となり、現在まで微減の状況である。途中のU字状態は何か統計上の錯誤か。なお、この報告では年齢別の割合が不明であるが、最近の信徒の少子高齢化は進んでおり、全ての教会活動に支障が出てくるまでになっている。教区内でも在住外国人の増加が顕著となっており、その状況は、現在公式には外国人ミサ参加数しか捉えられてなく、充実に望まれている。(教区百年史編纂委員会)

海峡からの風 55 下関労働教育センターだより

戦争、災害、そしてコロナ禍

多くの人間が同時に苦難に面した時、弱い立場の人々が一層苦しみを受け、崖っぷちに立たされる人間社会。

私の支援する学校のあるケニアのキベラを始め、スラムの状況がまさにそうである。

支援団体が去り、富裕層外国人が撤収してメイドや警備、労働者として雇われていた人々が失職し、彼らが稼いできた日銭を目当てに野路で小商いをしていた人々も収入を断たれ、ロックダウンで移動もままならず、学校閉鎖により子どもたちは給食を失い、狭い住居に大家族が長時間閉じ込められ、家庭内暴力、性暴力被害が増えた。スラムの学校は授業料収入が

なくなり家賃も給与も払えず、次々と閉校。残った学校も再開の条件、三密回避で教室の拡充・増築・設備の充実が必要になり、学校を失った生徒の受け入れには更なる資金と面積が必要になる。現実には不可能で、学校に行けない子どもたちは貧困から抜け出すチャンスも遠のく。そこに追い打ちをかける強制撤去を伴う開発の波。

そんな中でも人々は互いに助け合い、残った仲間たちは食品や衛生材料・生理用品などの配布、雇用の継続など様々な活動をあの手この手で生み出し、日本への帰国を余儀なくされた面々も諦める事なく新たな支援の形態を展開している。

国内でも貧困・格差が顕在化し、私の関わるフードバンクの活動は良きにつけ悪しきにつけ「コロナバブル」で多忙を極めている。前号にある様な滞日外国人研修生や日本語学校留学生たちへの支援、ホームレス

支援などセンター関連や下関の信徒の皆さんもそれぞれで積極的に取り組んでいる。

先日その流れを受け、子ども食堂や子どもの生活支援、スクールソーシャルワーカー、フードバンク等の方々が加わり、反貧困のネットワーク形成の端緒となる話し合いが中井神父の呼びかけで行われた。キリストの歩まれた様に目の前の弱い立場の命に寄り添い、課題に真摯に取り組みながら、こんな時だからこそ将来の目指すべき世界を想像し、実現に向かって歩を進めたい。

(大城研司)



下関労働教育センター

**広島教区カトリック学校 ネットワークミーティング**  
 ノートルダム清心中・高等学校  
 教諭 上垣内 智子

八月八日、広島教区カトリック学校ネットワークミーティングを開催いたしました。参加校は、広島県内のカトリック学校、広島学院、福山暁の星女子高等学校、ノートルダム清心中・高等学校の3校で、各校から五〜六名の高校生が参加しました。

名古屋教区松浦悟郎司教様のご指導のもと、「コロナ禍の中で迎える戦後七十五年」というテーマでコロナ禍での生活と戦時下の生活、人間関係、価値観を比較しながら、高校生が考えたこと、思ったことを共有し、「いま、大切にしなければならぬこと」を考えていきました。高校生の感想をご紹介いたします。「松浦司教様の、当たり前はその時々々の社会の価値観によって変えられていくものだ、というお話を聞いて、新しい当たり前を取

り入れていく中で、変わったり失ったりした考えや、新しく生まれたものを見逃さないようにすることが大切だと感じました。情報があふれている中で、自分で取捨選択をし、自分の意見をしっかりと持つことが大切だと分かりました。」  
 P-sep (平和学習を行う同好会) 所属高校一年生

高校生にこのような機会を与えていただき、白浜満司教様をはじめ、平和の使徒推進本部、教区の皆様、ありがとうございました。



インターネット回線を利用したテレビ会議システム (ZOOM) の様子

**地区便利**

**山口島根地区**

**\*山口島根地区社会教説一日研修会**

例年下関労働教育センターで行われている宿泊研修会を、今年はコロナウイルス感染対策として、一日のみで七月十八日(土)に実施しました。労働教育センター所長の中井淳神父の「神の武器で闘う」と福岡教区の山元眞神父の「フライングスコに付き添って思ったこと」の二つの講話を午前中に聞いた後、午後から小グループに分かれて「分かち合い」を行い、最後はミサで心を一つにして平和を祈ることができました。参加者が五十人を超えたので、会場を二つに分けたり、分かち合いグループを増やしたり大変でした。しかし、山口島根地区の多くの養成講座や研修会が中止になる中で、各小教区から例年よりも多数の参加者があったことが、社会教説学習会をこれからも続けていく必要性を確認することが

できたように思います。

**広島地区**

**\*平和の使徒推進本部主催の講演会**

去る九月二十六日(土)、「すべてのいのちを守るための月間」推進企画、講演会「どこいくの？アマゾンのひとびとと手を繋いで」が職町教会大聖堂で行われた。講師はアマゾンの先住民と森林の保護活動を長年続けられている熱帯森林保護団体代表南研子さん。また、中井淳神父による「ラウダート・シ」の視座からの講話、二人の対談もあった。参加者は七十名。講演会録画は平和の使徒推進本部のHPで公開中。



南研子さん

**岡山鳥取地区**

**\*岡山鳥取地区J-CARMS活動報告**

五月にイエズス会社会

司牧センターのグエン・タン・ニャー神父様の呼びかけに答えて始まった「一杯の愛のお米プロジェクト」(コロナ禍で失業したりアルバイト先がなくなったり生活維持ができなくなっている外国人の方々に必要な食料を送る活動)ですが、岡山鳥取地区では「J-CARMSにて岡山鳥取」がその任を担いました。地区の教会の大きな支援をいただき、八月二十三日にプロジェクトを終了いたしました。支援金、お米、手作り布マスクなど想像以上の温かい援助を頂いて、岡山県下の七十五人の方(ベトナム人、フィリピン人)にお米や調味料など基本的な食料とマスクを送り、特に困窮している九人に現金支給もすることができました。彼らから感謝の言葉と共に、頑張りますという決意と、これからも続くコロナ感染症拡大を乗り越えることができるよう主の恵みを祈りますとお便りをいただきました。

青少年の活動

岡山鳥取地区  
召命学校

去る八月十日に岡山教会で岡山鳥取地区召命学校を開催しました。召命学校は日帰りで開催し、計八名の子ども達も参加しました。



忙しい？  
忙しいですよ

職町教会 助任司祭  
ヨセフ 久保 裕己 神父

司祭に叙階されて、半年が過ぎました。コロナ渦の中にあつて様々な事柄に不自由する事も多いですが、司祭としての役目を果たすことに喜びを感じる日々を過ごしています。ミサを中心とする種々の秘跡、様々な養成講座、個々の相談相手等々、神学生や助祭の頃とは比べ物にならない程の充実した日々です。

時々、信徒の方から「神父さん、お忙しいでしょう？」と聞かれ、つい「はい、忙しい

プログラムは岡山教会の青年リーダー達を中心に準備しました。

全体プログラムは、午前は召命と聖ディエゴ喜齋をテーマに進行し、午後は子ども達の夏休みの思い出を作るためのプログラムを中心に進行しました。午前はまず、伊藤神学生が召命について聖ディエ

ゴ喜齋の生涯を短く説明しました。その後、子どもとリーダー達が一緒に話しながら聖人の墓まで歩いていきました。聖人の墓に到着した後、岡山教会の濱口さんが聖ディエゴ喜齋の墓と殉教者の意味について子ども達に説明してくれました。昼食は子ども達がコロナウイルスの影響

で外出しにくい状況であることを考慮し、子ども達が普段好きなピザやハンバーガー、チキン、飲み物などを十分に用意して一緒に食べました。食事の後は、岡山教会のあちこちに宝物を隠し、班ごとに探す宝探しを行いました。すべての子ども達が笑顔で教会のあちこちを駆け回りなが

いですよ。」と弱音を吐くこともありますよ。最近、出来るだけ「忙しい」という言葉を使わないようにしています。「忙しい」とは立心偏(りっしんぺん)という部首に「亡」と書きます。立心偏(りっしんぺん)は心を意味しますから、心が亡くなるというように感じてしまうからです。確かにイエス様は「心の貧しい人は幸いです。天の国は——。」(マタイ5・3)と仰っていますが、亡くなってしまうては元も子もありません。貧しい心であっても未熟な心ながらも、心を込めて司牧の現場に立ちたいものです。ですから、最近「忙しいです。」ではなく、「楽しいですよ。」とか「充実していますよ。」と答える

ようになっています。心が亡くならないように。教会で多くの人々と出会う時、心込めて接するならばそこは本当に「楽しい」教会、「充実した」教会となるのではないのでしょうか。確かに多くの事柄に翻弄されて慌ただしく過ごす日もあるでしょう。それでも心はいつでも生き生きと生きているのです。

今はまだ超がつくほどの初心者ですが、いずれ自転車でも市外、県外の教会を巡礼出来ればと密かに計画中です。いずれ皆さんの教会にもふらつと訪問することもあるかもしれませんが、コップ一杯の水を頂ければ幸いです。

指して。



愛車プロジェクトにまたがりポーズを決める 久保神父



召命学校参加者の集合写真

風紋

(朴 根培 助祭)

テレビ会議、ミサ中継配信、教会でもWebを駆使したスキルが向上。新しい動きに大いに期待。(み)

